

## 『相模原市史自然編』の正誤表

頁	箇所	誤	正
70	図3. 4-2の図中	<池子>の <u>空色</u> （浅海）	<池子>の <u>紫色</u> （深海～半深海）
”	”	<大船>の <u>紫色</u> （深海～半深海）	<大船>の <u>空色</u> （浅海）
85	図4. 1-3の説明	5（S1～ <u>S2</u> ）	5（S1～S3）
86	左5行目	砂礫層 <u>上</u> のに	砂礫層の上に
88	図4. 1-5の図中	②の位置	右側に1cm移動
127	図4. 5-2の説明	「堆積」とある <u>の</u> は	「堆積」とある時期には
”	”	狭い谷から <u>刻</u> まれた	狭い谷が <u>刻</u> まれた
153	左5～6行目	ササ <u>優先</u> の	ササ属 <u>優占</u> の
154	左17行目	年前の <u>間</u> の <u>僅</u> か	年前にそれぞれ <u>僅</u> か
167	図6. 2-1の説明	火砕流の <u>流向はラミナに基づく</u>	火砕流堆積物中に挟まれるST(a)と(b)の等層厚線が記入されている
183	図7. 2-1の凡例中	<u>(図7. 2-1)</u>	(図7. 1-2)
207	右15～16行目	1月と2月とでは <u>ほとんど差がない</u>	1月と2月とでは2月のほうが <u>わずかに多い</u>
208	左30行目	雲量が4であるのに、	雲量が4.0であるのに、
”	右6～7行目	(図8. 3-5 <u>上</u> )。	(図8. 3-5中)。
”	右10行目	6月 <u>末</u> に一時	6月中 <u>頃</u> に一時
209	左1～2行目	図8. 3-5 <u>中</u> である。	図8. 3-5 <u>上</u> である。
281	写真11-78の説明	約 <u>14km<sup>2</sup></u> の緑地	約73haの緑地
”	左3行目	約 <u>14km<sup>2</sup></u> に及ぶ樹林	約73haに及ぶ樹林
368	左15行目	<u>ナニハクビグロアツバ</u>	ナニワクビグロクチバ
371	写真12-157の説明	<u>キシタケンモン</u>	キバラケンモン
”	左17～18行目	<u>キシタケンモン</u>	キバラケンモン

頁	箇所	加筆文
46	第3章扉裏面	扉写真左上：小沢層のホタテガイ化石 右上：小沢層のバイ・マテガイ化石 左下：塩田層のギンエビス化石 右下：塩田層のオウナガイ化石
80	第4章扉裏面	扉写真 上：相模川と道志川合流点付近の段丘群 左中：始良Tn火山灰（AT）の火山ガラス 右中：相模原のローム中のAT（明るい黄褐色帯） 左下：富士東麓のおびただしいスコリア層、中央の細い層がAT 右下：大和市の地下（海拔2-3m）の試錐試料から認められたマガキ化石